

兵庫NIEニュース

第55号

発行 兵庫県NIE推進協議会

E-mail hyogo-nie@kobe-np.co.jp HP http://www8.kobe-np.co.jp/nie/hyogo/

〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社内
TEL (078)362-7054 FAX (078)362-7424

名古屋で全国大会

未来ひらく新聞の学び

2300人参加「寛容性の育成、必要」

第22回NIE全国大会名古屋大会日本新聞協会主催、愛知県NIE推進協議会、中日新聞社主導が8月3、4の両日、名古屋市内で開かれ、全国各地から教育、新聞関係者ら約2300人が参加した。「新聞を開く、世界をひらく」をテーマに、講演や座談会、分科会が多彩に繰り広げられた。兵庫県からはNIEアドバイザーの教諭14人が赴き、未来に向けたNIEの知見を深めた。

初日の開会式で、同協会の白石興一郎会長が「誰もが簡単に情報発信でき、情報を得ることができる社会」となったが、知識だけではなく、考える力や何が真実かを見極める力を高めるのも、NIE活動の課題となつてゐる」といさつ。続く記念講演では、ノーベル物理学賞受賞の天野浩・名古屋大教授が「世界を照らすLED～未来を照らすことの大切さ」と題して講演した。青色発光ダイオード開発の苦労話を紹介しながら、新聞との関わりについて話し、天野教授は「新聞は現在を映し出す鏡であり、研究の羅針盤だ」と述べていた。

この後、「頭の知識、体の知識」をテーマに座談会が行われた。天野教授に加え、愛知県内の小・中・



「10年後の自分」テーマ 名城大付属高公開授業

進路、各紙の記事基に探る

名古屋市の名城大学付属高校国際クラス3年生36人による公開授業

公開されたのは、キャリアプラン

が身につく。教室や学校に

はいろいろな子どもがいる。

新聞を通じ知識だけでなく、

や生活の変化も見据えながら、そ

れぞれのキャリアプランを分かり

やすく伝えていた。

が、前回に比べ64点増。中

小中高生から計1707点

の新聞記事を題材に感想や

意見などを寄せてもらつた

全国でみると、47都道府

県から4万7699点の応

募があつた。

の応募があつた。昨秋以降、新聞記事を題材に感想や意見などを寄せてもらつた全国でみると、47都道府県から4万7699点の応募があつた。

主催社に来年7月26、27日、岩手県盛岡市で開催予定。意見などを寄せてもらつた募があつた。

ンクール」に、兵庫県内の小中高生から計1707点の新聞記事を題材に感想や意見などを寄せてもらつた募があつた。

の応募があつた。昨秋以降、新聞記事を題材に感想や意見などを寄せてもらつた全国でみると、47都道府県から4万7699点の応募があつた。

が、前回に比べ64点増。中

小中高生から計1707点

の新聞記事を題材に感想や

意見などを寄せてもらつた

全国でみると、47都道府

県から4万7699点の応

募があつた。

の応募があつた。昨秋以降、新聞記事を題材に感想や意見などを寄せてもらつた募があつた。

が、前回に比べ64点増。中

小中高生から計1707点

の新聞記事を題材に感想や

意見などを寄せてもらつた

全国でみると、47都道府

県から4万7699点の応

募があつた。

が、前回に比べ64点増。中

小中高生から計1707点

の新聞記事を題材に感想や

意見などを寄せてもらつた

全国でみると、47都道府

県から4万7699点の応

募があつた。

が、前回に比べ64点増。中

小中高生から計1707点

の新聞記事を題材に感想や

意見などを寄せてもらつた

全国でみると、47都道府

県から4万7699点の応

募があつた。



近畿フォーラムに教師ら54人

大阪・天王寺「まわしよみ新聞」体験

第8回近畿NIEフォーラムが8月8日、大阪市天王寺区の市立天王寺中学校で開かれた。教師ら54人が参加し、ワークショップ「まわしよみ新聞編集長養成講座」などからNIEの新たな展開へ意見を交わした。

ワークショップに先立ち、元兵庫県NIE推進協議会事務局長で神戸市立博物館副館長の山崎整さんが「未来型NIEを探る—フェイクニュースがあふれる社会で」と題して講演（別稿で要旨）した。

「まわしよみ新聞」体験は、同新聞を考案した陸奥賢さんが指導。4、5人一組となりて各紙の朝刊を読んだ後、興味を持った記事を切り抜き、模造紙に張り壁新聞に仕上げた。写真。陸奥さんは「大人も子どもも楽しめるメディア遊び。新聞への関心、読む力を高めます」と話していた。



「新聞が教材」の日常化を

近畿アドバイザー会議

会事務局長会議（日本新聞協会主催）が8月8日、大阪市天王寺区の市立天王寺中学校で開かれた。各府県の教育関係者ら約20人が参加し、学力新時代のNIEをめぐり意見交換した。

大阪NIE推進協議会の安田陽子事務局長が開会の挨拶。続いて、同協会NIEコーディネーターの関口さんはNIEの裾野を広げるため、新聞を教材とした学習の日常化▽教員側の組織化▽フェイクニュースが問題となる中、正しい情報を得るにはお金がかかるという情報の価値を

近畿プロックNIEアドバイザー・NIE推進協議会事務局長会議（日本新聞協会主催）が8月8日、大阪市天王寺区の市立天王寺中学校で開かれた。各府県の教育関係者ら約20人が参加し、学力新時代のNIEをめぐり意見交換した。大阪NIE推進協議会の安田陽子事務局長が開会の挨拶。続いて、同協会NIEコーディネーターの関口さんはNIEの裾野を広げるため、新聞を教材とした学習の日常化▽教員側の組織化▽フェイクニュースが問題となる中、正しい情報を得るにはお金がかかるという情報の価値を

フェイクニュース、新聞が暴く

元兵庫県NIE推進協事務局長 山崎 整氏

近畿フォーラム 講演



新聞社出身者からみるとネット情報は危ういと痛感している。テーマは「フェイクニュースがあふれる」

スとは、意図的に発信され

た虚偽の情報のこと。その

動機は政治的、クイック数

を稼ぐ経済的、愉快犯の

3つが挙げられる。

やっかいなのが、偽が出

回っている間に、一定の信

頼性をもつて帰ってくるこ

と。偽ニュースを暴くのは

記事を書く以上に手間がか

かる。虚偽判断の間に偽ニ

ュースは広がっていく。

フェイクニュースは最近

の言葉だが、昔も偽情報、デ

マはあった。有名なのは、外

国人が井戸に毒を入れたと

いう関東大震災時のデマ。

電波媒体がない時代、新聞手のネットデマが増えるのが最終的にデマだと混乱を収拾させた。最近でも「どうなつていいんだ」と驚かされたデマがあった。ある新聞社のネット向けPDF号外を装つた偽号外がツイッター上に量産していた。取材・検証しながらしている。

ネット情報の信頼性でいって、大手IT会社による情報サイトが問題視され閉鎖された。他社の記事を引用、リライトし掲載情報を

聞は誤りに気づいた、読者がから指摘された時、必ず訂正記事を出す。新聞社の責任として紙面に載せ、これ正記事を出す。新聞社の責

任として紙面に載せ、これ

が最終的にデマだと混乱を

スが巡回する。熊本地震時も動物園からライオンが逃げたという偽ニュースが流れ、信用した人が多くいた。

情報の信頼性を担保、事実誤認があつたなら訂正記事を出す体制、見出しによると、国際的な偽情報によって国

の知ることの重要性に言及したことの重要性につながる」とアドバイスしていた。

参加者らによる意見交換では、それぞれの国語科、社会科などの実践経験が語られ、NIEの取り組みの日常化、継続することの

プラス効果を確認。NIEの追い風となる学校図書室の整備と活用、地域と連携した活動の必要性などについても指摘された。

新聞を教材に小論文

分析力の向上に有効

新聞記事から小論文の書き方を習得する公開授業が11月10日、姫路市香寺町土師の県立香寺高校であり、NIEに取り組む他校の高校教師ら13人が参加した=写真。世界の食糧事情や食糧難を克服する新たな動きに着目した記事を、2年5組18人が谷島充昭教諭の指導で分析し、小論文の論拠の立て方などを学んだ。

■香寺高校公開授業



NIE春夏秋冬

9月、沖縄読谷村のチビ

チリガマが何者かに荒らされた。情けなさに身もだえしながら記事を読んだ。ち

ぎれ散らばった千羽鶴の写真に胸をえぐられた。

1か月後、犯人が捕まつた。沖縄本島中部地域の高校生を含む4少年だった。

「肝試しでやった」という。

余りの無知。沖縄の人々の深い虚しさを思わずにはいられない。沖縄の人々の「肝試し」の後というのもない。ガマの遺品も誰か親族の中でもあつただろうに。千羽鶴は記号である。意味が込められている。見方を変えると、私たちの暮ら

は「記号の共通理解」によって成り立っているともいえる。「青」は進め、紅白結婚も、その意味を知らない。千羽鶴も、その意味を知らない。千羽鶴は記号である。意味が込められている。見方を変えると、私たちの暮ら

記号としての千羽鶴



兵庫県NIE推進協議会会長
(神戸松蔭女子学院大学教授)

秋田 久子氏

キヤリア教育の一環で調べ方を学んでおり、同発表会は集大成の取り組み。文系、理系の各テーマで2回分析や歌劇ファンへの聞き

て」をテーマに発表した女子生徒は、会社の経営戦略

はリピーターを重視し、ファンは洗練されたブランド

を求めていた。

記号は社会常識を形成する雑多な知識から身に付けるものだ。これからは「世間話を聞かせてくれる地域の大」の役割も、NIEのもう一つの大きな役割になると考へさせられた出来事だった。

課題研究へ新聞を活用

■西宮高校公開授業

同校は日本新聞協会のNIE実践指定校として2年目。毎年の学力向上などに新聞を活用している。公開されたのは、「新聞を教材とした小論文指導」をテーマとした国語表現の授業。2紙の記事を読み、記者の見方や事実を理解し、小論文作りにつなげると、3時間構成としている。

この日は2時間目の取り組み。「食材としてのコオロギ」「植物や牛の細胞培養による人工肉」が紹介された記事を読み、記事の中の主觀・客觀事項を区別し、「入試なり」と話していた。

次回に小論文を書き上げるが、谷島教諭は「入試な

どにつかえる力を高めるた

め、新聞を活用することが

できる。調べる方法や検索

の主觀・客觀事項を区別し

い」と話していた。

生徒らに報告した。

将来の進路を考える際の

アドバイスなどから総合的な学習で新聞や書籍、ネットなどから情報収集の仕方やテーマに沿ったまと

め、新聞を活用することが助けて、1年時から総合的な学習で新聞や書籍、ネットなどから情報収集の仕方やテーマに沿ったまと

「宝塚歌劇の経営について

兵庫県NIE推進協議会は、2018年度のNIE実践指定校を募っている。対象は県内の国公私立小・中・高校と特別支援学校で、校長の承認が得られることを条件としている。17年度の指定校は20校。このうち、18年度も継続する学校を除き、新たに9校を募集する。応募多数の場合には地域や校種などを配慮して選考する。

18年度の実践指定校 募集

県NIE推進協議会、新たに9校

指定期間は原則2年。日本新聞協会と連携した全国レベルの取り組みで、各学校に県内で発行されている6新聞を1部ずつ4カ月、または2カ月間、無料で提供するほか、記者派遣事業を利用できる。

NIE実践について説明するオリエンテーションもある。指定校には年度末ごと、冊子用と同協会提出用の実践報告書(それぞれA4判4枚、A4判1枚)を提出してもらっている。

希望校は、兵庫県NIE推進協議会事務局☎078・362・7054(事務局レベルでの応募締め切りは18年2月28日)

